



86<sup>th</sup>

中間報告書

2016.4.1 - 2016.9.30

[ 特集 ]

- ① 新型インプレッサ 発売開始
- ② 北米向け新型インプレッサの生産を開始

株主様イベントのご案内

株主のみなさまには平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第86期(2016年度)の中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

2016年度上期につきましては、グローバルの自動車連結販売台数が上期として過去最高の51.2万台となり、初めて半期で50万台を超える販売台数を記録することができました。好調な販売により諸経費等の増加を吸収いたしました。為替変動の影響により、上期の連結業績は、売上高1兆5,777億円、営業利益2,085億円、経常利益2,278億円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,638億円となりました。

また、2016年度通期計画につきましては、連結販売台数106.2万台と100万台を超える過去最高の見通しであります。今後も為替変動の影響などが見込まれるため、売上高3兆1,800億円、営業利益3,730億円、経常利益3,970億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,780億円となる見通しであります。

このような状況の中、株主のみなさまへの中間配当につきましては、2016年度上期の業績、通期業績予想に鑑みまして、1株当たりの配当を72円といたしました。また、期末の配当予想につきましても、中間配当と同じく72円といたします。これによりまして、1株当たりの年間配当金は、昨年度実績と同様の144円となる予定でございます。

さて、当社グループは中期経営ビジョン「際立とう2020」において、2020年のありたい姿を「大きくはないが強い特徴を持ち 質の高い企業」と定め、その実現に向けて「スバルブランドを磨く」と「強い事業構造を創る」ことに取り組んでおります。

そのような中で、当社の2016年度のグローバル連結販売台数は、引き続き好調な米国販売が牽引し、5年連続で過去最高記録を更新する見通しであります。一方、できる限り早く、一人でも多くのお客様に車をお届けするため、米国生産拠点でありますスバル オブ インディアナ オートモーティブ インク(以下、SIA)において、継続して能力増強投資を行っており、標準操業

における生産能力を、2016年3月末の21.8万台から2016年末には39.4万台へ引き上げることを計画しております。

本年は、SIAにとって変革の年でございます。5月末にこれまで受託生産をしておりましたトヨタ車「カムリ」の生産を終了し、1か月に製造ラインを改修して、7月からはアウトバックの生産を開始いたしました。これに加え、11月には新たに北米向け新型インプレッサの生産を開始いたしました。1989年9月に稼働を開始したSIAは、直近ではレガシィ、アウトバックの2車種を生産しておりましたが、今回の新型インプレッサの追加により、3車種の生産工場となりました。さらには、2018年には多人数SUVの生産を追加する予定でございます。

また、これらの生産能力の増強に加え商品につきましては、本年10月に、当社が中期経営ビジョン「際立とう2020」における次世代モデルの第1弾として位置づける戦略車、新型インプレッサを日本市場にて発売いたしました。お客様に最高の「安心と愉しさ」を提供することを目指し、次世代プラットフォーム「SUBARU GLOBAL PLATFORM」をはじめとした様々な新技術を投入して、「総合安全性能」と「動的質感・静的質感」の大幅向上を実現いたしました。

当社といたしましては、こうした中期経営ビジョン「際立とう2020」に基づいた取り組みにより、中長期的な企業価値の向上と、持続的成長・発展を目指しております。今までの健全なビジネスモデルを大事にしつつ、未来を切り拓くために電動化や環境対応の技術開発にも注力し、より魅力的な「SUBARU」を築き上げて参ります。株主のみなさまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2016年12月

代表取締役社長



吉永 尚之

## 営業の概況（連結）

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、自動車売上台数の増加があったものの、為替変動に伴う売上高の減少などにより、1兆5,777億円と前年同期比238億円(1.5%)の減収となりました。

利益面につきましては、自動車売上台数の増加や原価低減の進捗などにより、エアバッグインフレータに起因する品質関連費用を中心とした諸経費等ならびに試験研究費の増加を吸収したものの、為替変動が影響し、営業利益は2,085億円と前年同期比766億円(26.9%)の減益となり、経常利益につきましても、2,278億円と前年

同期比573億円(20.1%)の減益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましても、1,638億円と前年同期比294億円(15.2%)の減益となりました。

### ● 通期見通し

通期の連結業績につきましては、売上高3兆1,800億円、営業利益3,730億円、経常利益3,970億円、親会社株主に帰属する当期純利益2,780億円を予想しております。

## 連結の業績および推移

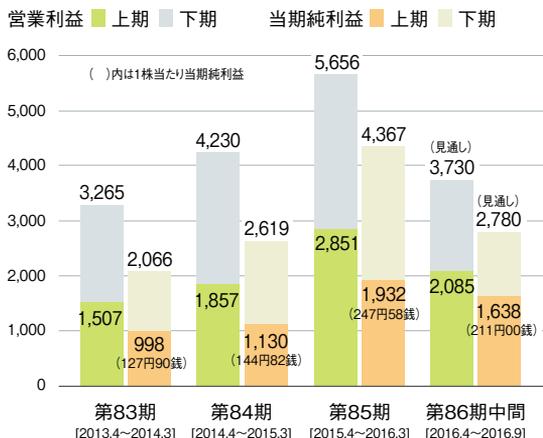
### ● 売上高の推移

(単位:億円)



### ● 利益の推移

(単位:億円)



自動車事業部門

重点市場である北米の販売好調などにより上半期として初の50万台突破

国内の登録車につきましては、「レヴォーグ」の販売が減少したものの、「フォレスター」などの販売が好調に推移したことにより、売上台数は5.2万台と前年同期比0.3万台(5.3%)の増加となりました。一方、軽自動車につきましては、昨年からの軽自動車税増税の影響などにより、1.6万台と前年同期比0.1万台(6.8%)の減少となりました。これらの結果、国内における売上台数の合計は6.8万台と前年同期比0.2万台(2.3%)の増加となりました。

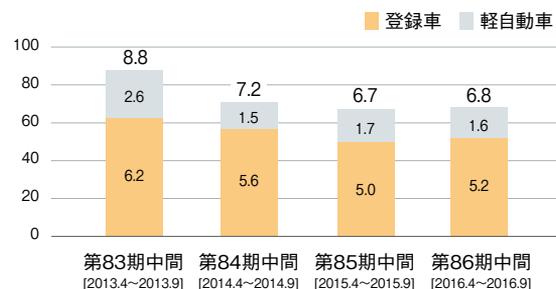
海外につきましては、当社の重点市場である北米において「アウトバック」などの販売が好調に推移したことにより、売上台数の合計は44.4万台と前年同期比3.8万台(9.4%)の増加となりました。

地域別の売上台数は、北米で35.5万台と前年同期比3.9万台(12.2%)の増加、ロシアを含む欧州で2.2万台と前年同期比0.1万台(3.9%)の減少、豪州で2.2万台と前年同期比0.1万台(2.5%)の減少、中国で2.2万台と前年同期比0.1万台(6.2%)の増加、その他地域で前年同期並みの2.2万台となりました。

以上の結果、国内と海外の売上台数の合計は、第2四半期連結累計期間において過去最高となる51.2万台と前年同期比4.0万台(8.4%)の増加となったものの、為替変動の影響により、全体の売上高は、1兆4,924億円と前年同期比133億円(0.9%)の減収となりました。また、セグメント利益につきましては、為替変動及びエアバッグインフレータに起因する品質関連費用を中心とした諸経費等ならびに試験研究費の増加の影響により、2,033億円と前年同期比699億円(25.6%)の減益となりました。

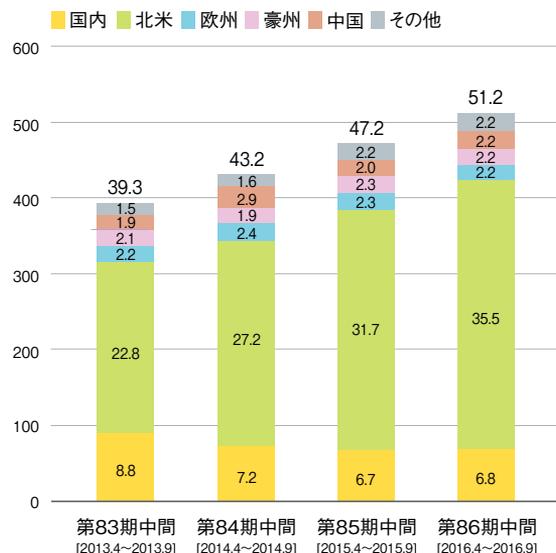
● 売上台数の推移(国内)

(単位:万台)



● 売上台数の推移(世界)

(単位:万台)



※台数表示は千台未満四捨五入

## 航空宇宙事業部門

## ボーイング787の生産は増加したものの為替影響などにより減収減益

防衛省向け製品では、回転翼機の生産が減少したことにより、売上高は前年同期を下回りました。

民間向け製品では、「ボーイング787」の生産が増加したものの、為替変動の影響により、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、全体の売上高は668億円と前年同期比67億円(9.1%)の減収となりました。セグメント利益につきましても、36億円と前年同期比60億円(62.7%)の減益となりました。

## 産業機器事業部門

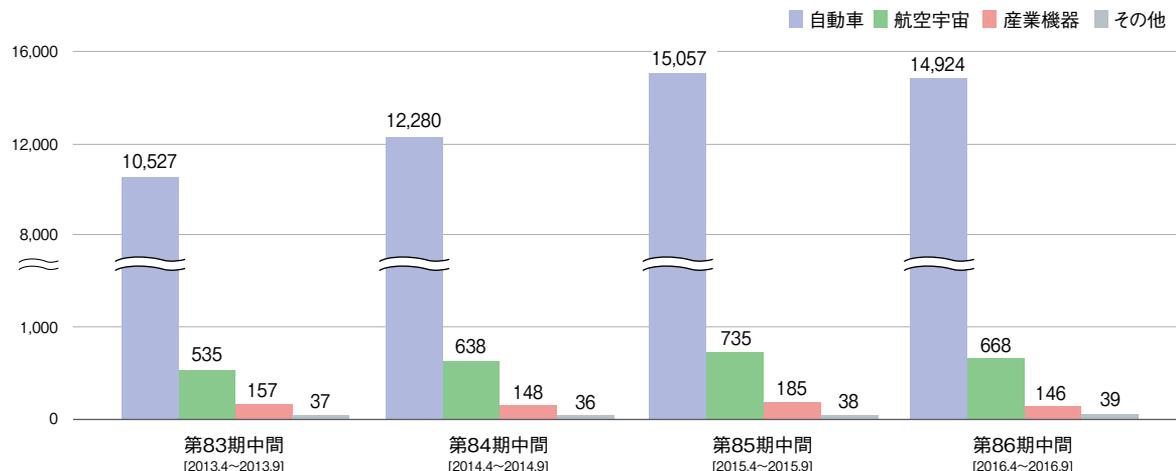
## 北米向け販売の減少により減収減益

北米向けレジャービークル用エンジンの販売が減少したことにより、売上高は146億円と前年同期比39億円

(20.8%)の減収となりました。セグメント損失につきましても、前年同期比9億円減益の3億円の損失となりました。

## ● 部門別売上高の推移

(単位:億円)



## 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当第2四半期末 2016年9月30日現在	前期末 2016年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	531,298	507,553
受取手形及び売掛金	129,790	140,319
リース投資資産	19,775	21,532
有価証券	455,528	500,572
商品及び製品	172,620	192,705
仕掛品	50,518	50,666
原材料及び貯蔵品	41,101	34,996
繰延税金資産	79,294	90,893
短期貸付金	164,853	151,973
その他	89,565	93,509
貸倒引当金	△ 586	△ 625
<b>流動資産合計</b>	<b>1,733,756</b>	<b>1,784,093</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	166,782	158,386
機械装置及び運搬具(純額)	161,069	138,519
土地	183,861	182,531
賃貸用車両及び器具(純額)	15,783	7,460
建設仮勘定	33,768	46,951
その他(純額)	43,159	38,786
<b>有形固定資産合計</b>	<b>604,422</b>	<b>572,633</b>
<b>無形固定資産</b>		
その他	22,348	20,989
<b>無形固定資産合計</b>	<b>22,348</b>	<b>20,989</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	88,953	109,804
退職給付に係る資産	483	1,774
繰延税金資産	19,075	16,339
その他	94,418	90,205
貸倒引当金	△ 3,406	△ 3,427
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>199,523</b>	<b>214,695</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>826,293</b>	<b>808,317</b>
<b>① 資産合計</b>	<b>2,560,049</b>	<b>2,592,410</b>

単位:百万円

科目	当第2四半期末 2016年9月30日現在	前期末 2016年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	314,760	326,625
電子記録債務	87,623	91,476
短期借入金	42,360	33,252
1年内返済予定の長期借入金	64,212	33,692
1年内償還予定の社債	—	10,000
未払法人税等	42,758	100,272
未払費用	166,951	132,759
賞与引当金	24,017	23,554
製品保証引当金	50,624	51,251
工事損失引当金	201	645
その他	165,315	155,969
<b>流動負債合計</b>	<b>958,821</b>	<b>959,495</b>
<b>固定負債</b>		
長期借入金	54,872	93,030
繰延税金負債	17,087	18,769
役員退職慰労引当金	490	478
退職給付に係る負債	18,900	18,586
その他	148,302	152,641
<b>固定負債合計</b>	<b>239,651</b>	<b>283,504</b>
<b>② 負債合計</b>	<b>1,198,472</b>	<b>1,242,999</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,165	160,071
利益剰余金	1,109,664	1,049,016
自己株式	△ 7,168	△ 1,402
<b>株主資本合計</b>	<b>1,416,456</b>	<b>1,361,480</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	5,887	11,344
為替換算調整勘定	△ 52,180	△ 13,415
退職給付に係る調整累計額	△ 11,530	△ 12,808
在外子会社のその他退職後給付調整額	△ 2,574	△ 2,869
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>△ 60,397</b>	<b>△ 17,748</b>
非支配株主持分	5,518	5,679
<b>③ 純資産合計</b>	<b>1,361,577</b>	<b>1,349,411</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>2,560,049</b>	<b>2,592,410</b>

[注]百万円未満四捨五入

## 連結損益計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計	前第2四半期累計
	自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日	自 2015年4月 1日 至 2015年9月30日
売上高	1,577,652	1,601,475
売上原価	1,126,735	1,087,212
売上総利益	450,917	514,263
販売費及び一般管理費	242,392	229,166
営業利益	208,525	285,097
営業外収益	24,846	13,260
営業外費用	5,599	13,335
経常利益	227,772	285,022
特別利益	10,219	521
特別損失	2,413	2,444
税金等調整前四半期純利益	235,578	283,099
法人税等合計	70,921	91,164
四半期純利益	164,657	191,935
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	820	△ 1,269
親会社株主に帰属する四半期純利益	163,837	193,204

[注]百万円未満四捨五入

## 連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当第2四半期累計	前第2四半期累計
	自 2016年4月 1日 至 2016年9月30日	自 2015年4月 1日 至 2015年9月30日
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	198,375	282,859
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 108,966	△ 96,898
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 116,661	△ 39,542
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 25,521	△ 1,383
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 52,773	145,036
現金及び現金同等物の期首残高	829,461	612,085
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	△ 127
現金及び現金同等物の四半期末残高	776,688	756,994

[注]百万円未満四捨五入

### Point ▶ ① 資産

資産は、現金及び預金と有価証券を合わせた手許資金が213億円、投資有価証券が209億円減少し、有形固定資産が318億円増加したことなどにより、前期末比324億円の減少となりました。

### Point ▶ ② 負債

負債は、支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務が157億円、未払法人税等が575億円減少し、未払費用が342億円増加したことなどにより、前期末比445億円の減少となりました。

### Point ▶ ③ 純資産

親会社株主に帰属する四半期純利益1,638億円、配当金の支払い562億円、自己株式の消却469億円などにより利益剰余金が606億円増加し、為替換算調整勘定が388億円減少したことなどから、純資産は前期末比122億円の増加となりました。

### Point ▶ ④

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払い1,190億円があったものの、未払費用の増加417億円、税金等調整前当期純利益2,356億円などがあったことから、1,984億円のキャッシュインとなりました。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

生産能力増強などに伴う投資活動、有価証券の取得による支出などがあったことから、1,090億円のキャッシュアウトとなりました。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当の支払いや、自己株式の取得による支出などにより、1,167億円のキャッシュアウトとなりました。

# 乗る人すべてに最高の安心と愉しさを 新型インプレッサ 発売開始



## IMPREZA

次世代のプラットフォーム、SUBARU GLOBAL PLATFORMを採用した新型インプレッサ(日本仕様)が、10月13日に発表され25日から発売開始となりました。第5世代となる新型インプレッサは、SUBARU次世代モデルの第1弾として位置付ける戦略車です。

5ドアハッチバックの“SPORT”と4ドアセダン“G4”の2つのボディタイプがあり、エンジンは新開発の2.0ℓ直噴NAエンジンと1.6ℓNAエンジンを採用。また、国産初となる歩行者エアバッグとアイサイト(Ver.3)を全車に標準装備することで、SUBARUがお客様に提供する価値である「安心と愉しさ」を進化させ、次世代SUBARUの幕開けにふさわしいモデルに仕上げました。

# SUBARU GLOBAL PLATFORM

## SUBARUの次世代プラットフォーム

中期経営ビジョン「際立とう2020」で掲げた「スバルブランドを磨く取り組み」の一環として開発されたSUBARU GLOBAL PLATFORM。お客様に最高の「安心と楽しさ」を提供することを目指し、さまざまな新技術を投入し、「総合安全性能」と「動的質感・静的質感」の大幅向上を実現しています。



## めざしたのは世界トップレベルの総合安全性能

0次安全、走行安全、予防安全、衝突安全。

SUBARUが取り組んでいるすべての側面での安全性能において、新型インプレッサは世界のトップレベルをめざしました。

### 0次安全

優れた視界性能、疲れにくいシート、運転に集中できるインターフェースなど安全なドライブのために考え抜いた設計をすることで、常に運転に集中できる環境を整えています。

### 走行安全

「走る、曲がる、止まる」というクルマの基本性能を磨くことで、クルマを操る楽しさを深めるとともに、もしもの時の危険回避性能を高めています。

### 予防安全

先進の運転支援システムアイサイトを、2WD車にも拡大展開し全グレードに標準装備しました。最新型のアイサイト(Ver.3)は、アクティブレーンキープ(車線中央維持)機能が追加されています。

### 衝突安全

SUBARU初採用となる歩行者保護エアバッグは歩行者と接触した際にピラーやフロントガラスなどの堅い部分を覆うようにエアバッグが展開し、歩行者の頭部への衝撃を軽減する装備です。日本の交通事故死亡者のうち、歩行者・自転車の比率は先進国の中でも高い約50%。このような事故を少しでも減らすために、全グレードに標準設定としました。



# SIAにて北米向け 新型インプレッサの生産を開始



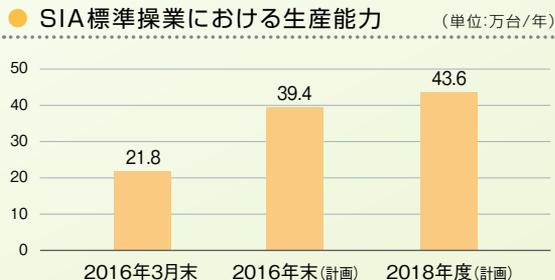
北米における生産拠点  
スバル オブ インディアナ  
オートモーティブ インク



(SIA)において、新たに北米向け新型インプレッサの生産を開始し、現地時間2016年11月1日にラインオフ式を行ないました。今回のフルモデルチェンジのタイミングで、これまで日本で生産しておりました北米向けインプレッサを米国に生産移管いたしました。また、SIAではこれに先駆けて、5月末に生産を終了したカムリ(トヨタからの受託生産)の生産ラインを1か月で変更し7月からアウトバックの生産を立ち上げています。現在はインプレッサ、レガシィ、アウトバック3車種を生産しており、2018年にはこれに加えて多人数SUVの生産を追加する予定です。

## 好調な北米市場において生産体制を強化します

SUBARU車の販売が好調に推移する北米市場において、SIAでは継続して生産能力を強化するための投資を行っており、標準操業における生産能力を2016年3月末21.8万台から2016年末には39.4万台、2018年度には43.6万台へ引き上げていきます。SIAで生産した車両は、主に米国、カナダで販売しており、2017年3月期のSUBARU生産台数は、過去最高の33.6万台(対前年比+42.3%)を計画しています。



当社は、地球環境問題を経営課題の一つであると認識し、持続的な社会の実現に向け、社会的責務を全うする企業でありたいと考えています。今後も、「存在感と魅力ある企業」を目指すという経営理念のもと、「安心と愉しさ」という価値を提供しながら、より良い社会・環境づくりに貢献し、持続可能な社会の実現を目指して参ります。

## 日本政策投資銀行の環境格付において最高ランクを初取得

当社は、2016年8月5日に株式会社日本政策投資銀行(代表取締役社長:柳 正憲、以下DBJ)が実施する「DBJ環境格付」において、「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」という最高ランクの格付を、初めて取得しました。

「DBJ環境格付」は、DBJが開発したスクリーニングシステム(格付システム)により、企業の環境経営度を評点化し、優れた企業を選定し、得点に応じて3段階の金利を適用する「環境格付」の手法を用いた世界で初めての融資メニューであり、2004年より運用されています。

今回の格付評価においては、当社がスバルブランドの自動車製造を中核事業としており、完成車メーカーとして求められる各国の厳格な環境規制に対応すべく、サプライヤーも含めた徹底したリスク管理に基づく高度な環境経営を推進している点が評価されました。

### 【評価ポイント】

- ① 国内外の関係会社を含めたEMSの推進に努めつつ、全国に点在する販売特約店に対しても環境マネジメント認証の取得を慫慂し、バリューチェーン全体を通して環境配慮に取り組んでいる点
- ② 自動車製造部門におけるISO認証取得企業からの調達率100%を維持する等、サプライヤー管理において、環境面の強化に努めていることに加え、足下では人権・労働に関する取引先調査を開始するなど、その射程を社会側面にも広げている点
- ③ 低燃費化・低排ガス化に向けた継続的な努力と並んで、LCA評価を用いて、より総合的な環境性能の向上を追求している点、および、運転支援システム「アイサイト」に代表される安全技術の開発に積極的に取り組んでいる点



DBJ環境ロゴマーク

## CDP2016気候変動レポートにおいてA-に認定



CDP環境ロゴマーク

当社は、2016年10月25日に公表された「CDP\*1 2016気候変動レポート」において、最高ランクAに次ぐ評価であるA-(マイナス)企業に認定されました。

\*1: CDPとは、827の機関投資家(運用資産100兆米ドル)が連携し運営する非営利団体。世界の先進企業に環境戦略や温室効果ガスの排出量の情報開示を求めて質問状を送り、その回答を分析・評価して、投資家に開示している。

①工場ご視察会（群馬製作所）

株主様向けの工場ご視察会をご案内いたします。  
矢島工場とスバルビジターセンターに加え、  
本工場に併設されておりますテストコースの  
ご視察をしていただく予定です。



PHOTO:スバルビジターセンターの展示コーナー

● 日時

2017年3月20日(月・祝) 10:00~16:00予定

● 場所

群馬製作所矢島工場およびビジターセンター

群馬県太田市庄屋町1-1

群馬製作所本工場併設テストコース

群馬県太田市スバル町1



PHOTO:矢島工場内の製造ライン



PHOTO:群馬製作所 矢島工場

● 集合場所

電車の場合 東武伊勢崎線太田駅

お車の場合 群馬製作所矢島工場

- ① 当日は東武伊勢崎線太田駅より送迎バスをご用意いたします。
- ② お車でお越しの株主様は矢島工場へ直接おいでください。
- ③ 当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

● 人数

100名様程度(ご同伴者様含む)

- ① 少しでも多くの株主様をご招待するため、研究実験施設ご視察会(東京事務所)との同時応募はできません。
- ② ご希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
- ③ 当選落選に関しましては株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には当日の詳細をご案内いたします。

● 対象者

2016年9月30日現在、当社株式を100株以上ご所有の株主様(ご同伴者様1名まで可)

※ご同伴者様は小学生以上とさせていただきます。

【ご注意】ご視察コースは階段等を含め、約1時間の歩行となります。

● ご応募方法 下記の当社ホームページまたはハガキでご応募

[http://www.fhi.co.jp/ir/share\\_info/tour\\_application.html](http://www.fhi.co.jp/ir/share_info/tour_application.html)

ご希望のイベントを記入して下さい

- ① 群馬  
または、
- ② 東京

①と②の同時応募  
はできません

株主様

- ① 郵便番号
- ② ご住所
- ③ お名前
- ④ 年齢
- ⑤ 交通手段(電車・車・その他)
- ⑥ 電話番号
- ⑦ 携帯番号

ご同伴者様

- ① ご住所
- ② お名前
- ③ 年齢
- ④ 株主様とのご関係

● 個人情報の取扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は  
本ご視察会の実施以外の目的では一切使用いたしません。

## ② 研究実験施設ご視察会 (東京事業所)

※製造ラインのご視察はございません。

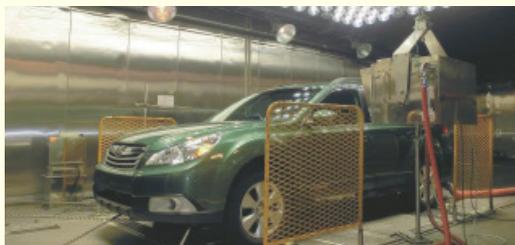


PHOTO:東京事業所 実験施設



PHOTO:アイサイト プリクラッシュ体験(イメージ)

株主様向けの研究実験施設ご視察会をご案内いたします。  
パワーユニット開発拠点の研究実験施設  
およびデザイン施設のご視察に加え、  
アイサイトの体験試乗をしていただく予定です。

- 日時  
2017年3月9日(木) 11:00~16:00予定
- 場所  
東京事業所  
東京都三鷹市大沢3-9-6

- 集合場所  
CAR DO SUBARU 三鷹 2F  
SUBARU・STI GALLERY  
東京都三鷹市大沢3-9-6

- ① CAR DO SUBARU 三鷹までは、公共交通機関をご利用ください。  
(JR中央線武蔵境駅南口より、小田急バス「吉01」または「境91」にて乗車いただき、「富士重工前」にて降車ください。)
- ② 当日のご集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますのでご了承ください。

- 人数  
60名様程度(ご同伴者様含む)
  - ① 少しでも多くの株主様をご招待するため、工場ご視察会(群馬製作所)との同時応募はできません。
  - ② ご希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
  - ③ 当選落選に関しましては株主様ご本人に直接ご連絡し、当選の株主様には当日の詳細をご案内いたします。

- 対象者  
2016年9月30日現在、当社株式を100株以上ご所有の株主様(ご同伴者様1名まで可)  
※ご同伴者様は小学生以上とさせていただきます。

【ご注意】ご視察コースは階段等を含め、約2時間の歩行となります。

ください。

締め切り

ホームページ: 2017年1月10日24時まで  
ハガキ: 2017年1月10日 当日消印有効

郵便はがき

1 5 0 - 8 5 5 4

東京都渋谷区恵比寿1-20-8  
富士重工業株式会社 総務部  
「株主様イベント」係

【お問い合わせ先】

富士重工業株式会社 総務部「株主様イベント」係  
TEL.03-6447-8825

## 配当に関する事項

2016年11月2日開催の取締役会において、当社定款第47条に基づき、2016年9月30日の最終の株主名簿に記載された株主または登録株式質権者に対し、以下のとおり中間配当の実施を決定しました。

1. 中間配当金1株につき 72円
2. 株支払請求権の効力発生日および支払開始日 2016年12月1日

## 株式に関する事項 (2016年9月30日現在)

### ● 株式の総数

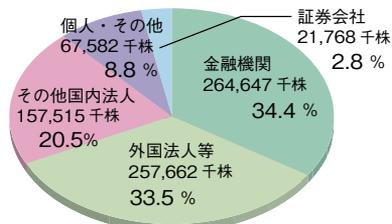
発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 769,175,873株

[注] 当期中の増減 △ 13,690,000株

### ● 株 主 数 83,968名

### ● 所有者別状況 合計769,175千株



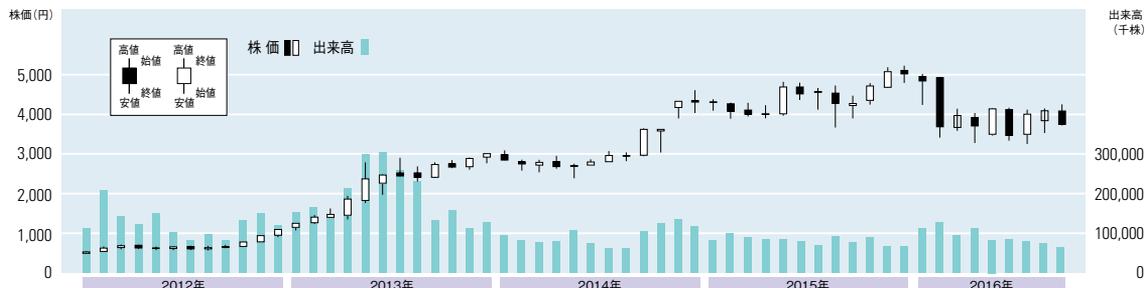
[注1]「個人・その他」には、当社所有の自己株式2,088千株が含まれております。

[注2]「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式11千株が含まれております。

### ● 大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	47,812	6.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	46,961	6.11
株式会社みずほ銀行	16,078	2.09
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	12,157	1.58
富士重工工業取引先持株会	10,016	1.30
MIZUHO SECURITIES ASIA LIMITED-CLIENT A/C 69250601	9,902	1.29
東京海上日動火災保険株式会社	9,780	1.27
日本生命保険相互会社	9,513	1.24
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA/NV 10	9,043	1.18

### ● 株価の推移



社 名 富士重工業株式会社  
 英 文 社 名 Fuji Heavy Industries Ltd.  
 創 立 1953年(昭和28年)7月15日  
 資 本 金 153,795百万円  
 従 業 員 数 14,744名(連結会社合計32,571名)  
 主 要 製 品 普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン  
 本 社 〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号  
 代 表 電 話 03-6447-8000

2017年4月1日をもちまして、社名を「株式会社SUBARU」(英訳名:SUBARU CORPORATION)に変更します。

## 役員 (2016年9月30日現在)

代表取締役社長	吉永 泰之	執行役員	飯田 政巳
代表取締役副社長	近藤 潤	執行役員	堤 ひろみ
取締役専務執行役員	武藤 直人	執行役員	戸塚 正一郎
取締役専務執行役員	高橋 充	執行役員	為谷 利明
取締役専務執行役員	日月 文志	執行役員	栗原 宏樹
取締役専務執行役員	笠井 雅博	執行役員	内田 雅之
☆取締役	駒村 義範	執行役員	臺 卓治
☆取締役	青山 繁弘	執行役員	早田 文昭
専務執行役員	永野 尚	執行役員	大崎 篤
専務執行役員	村上 晃彦	執行役員	小林 達朗
専務執行役員	中村 知美		
専務執行役員	細谷 和男	常勤監査役	馬淵 晃
専務執行役員	大河原 正喜	常勤監査役	灰本 周三
常務執行役員	小坂井 康雄	☆監査役	三田 慎一
常務執行役員	野飼 康伸	☆監査役	阿部 康行
常務執行役員	前田 聡		
常務執行役員	岡田 稔明		
常務執行役員	大抜 哲雄		
常務執行役員	加藤 洋一		
常務執行役員	水間 克之		

[注] ☆印は会社法に定める社外取締役および社外監査役であります。  
 また、東京証券取引所に対し、独立役員として届け出ております。

## 株式手続きのご案内

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日  
定時株主総会 6月中  
単元株式数 100株  
株主名簿管理人及び特別口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
公告方法 電子公告  
(ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。)

株式に関する各種お手続き(届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式に関する買取請求書及び買増請求書等)に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓口につきましては、以下のとおりです。

### 証券会社に口座をお持ちの場合

お取引の証券会社になります。

なお、未払配当金の支払、支払明細発行については、下記のお取扱店・電話お問い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。

### 証券会社に口座をお持ちでない場合(特別口座)

お取扱店 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店

電話お問い合わせ先 0120-288-324(フリーダイヤル)

郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

なお、未払配当金のお支払につきましては、みずほ銀行本店及び全国各支店でもお取り扱いいたします。

表紙PHOTO:インプレス G4 2.0i-S EyeSight ヒュアレッド



PHOTO:ボーイング787-9(ボーイング社提供) ※当社はボーイング787の中央翼を製造しています。

## 富士重工業株式会社

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号

電話 03-6447-8000

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

